

2025

12.24 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_m-B7SX2fQR-RAIiZFTd8hQ

【技術支援】九州大学 Q-AOS

「冷たい環境 (Chilly Climate)」とは何か ～ STEM 分野に女子・女性が増えない本当の理由～

4 質の高い教育を
みんなに5 ジェンダー平等を
実現しよう9 産業と技術革新の
基盤をつくろう10 人や国の不平等
をなくそう12 つくる責任
つかう責任

Key Words

STEM

ジェンダー

進路選択

大学教育

理系人材

河野 銀子 教授

男女共同参画推進室



徳島県生まれ。大学進学の際に上京し、大学院時代も東京圏で暮らしました。1996年6月に山形大学に講師として着任し、教員養成に従事しました。在職中に博士(社会学)を取得し、2023年10月に九州大学男女共同参画推進室に教授として着任しました。専門分野は教育社会学で、理系進路選択のジェンダー分析や、女性研究者支援政策の国際比較等に関する研究をしています。共著書に『理科離れしているのは誰か』(日本評論社)、『女性研究者支援の国際比較』(明石書店)等があります。現在、共同研究として大学におけるDEI、個人では男子の学力低下問題研究に取り組んでいます。

かつての日本では、理工系分野の職業や専攻に女性が少なくても問題とみなされることはありませんでした。その状況は徐々に変化し、2006年度には女性研究者の増加が政策課題として位置づけられ、その後、すそ野拡大を含む諸事業に予算がつくようになりました。それにもかかわらず、女性入学者に占める理工系選択率はほとんど変化していません。国だけでなく、NPOや企業、大学や中高でも努力しているのに、効果がみられないのはなぜでしょうか。長らく同様の問題に向き合い、今世紀に入って政策を転換させた国々が、「冷たい環境」を変えようとしていることを手掛かりに考えたいと思います。